



## 楽しみながら成長する場へ ～交流と学びの放課後子ども教室～

本町では放課後の教室を活用し、地域のかたがたや異なる年齢の子どもたちと交流しながら体験活動や学びを深めることを目的に「放課後子ども教室」を設置しています。

今回は16年目となる現在の「放課後子ども教室」の取り組みについて紹介します。

### 子どもたちを 取り巻く状況

全国的に少子化や核家族化が進行するなか、子どもや子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化し、地域のかたがたや異なる年齢の子ども同士が交流する機会が減少しています。そのため、地域のボランティア等の協力・参画を得て、多様な体験や交流を深められる場が求められています。

町では、放課後等に地域のかたがたに支援いただきながら、体験・交流活動を実施する放課後子ども教室を設置しています。

この放課後子ども教室は、平成19年度に小国小学校に設置され、その後、叶水小学校、北部小学校、沖庭小学校にも設置されました。現在は小国小学校の「めっちゃ」と叶水小学校の「ひだまり」が活動しています。

また、小学校の休校日や夏休みには北部小学校で実施されていた「まご楽校」も行われてい

ます。年に3回程度、北部地区で実施されており、まご楽校のスタッフであった「まご支援隊」のかたがたと子どもたちが交流しています。

子どもたちの健やかな成長のため、地域と学校が協働し教育活動を展開している白い森地域学校協働本部の地域学校協働活動推進員が活動プログラムの組み立てや学校・スタッフと連絡調整等を行っています。

### 子どもたちの学びと交流の場として

おぐに放課後子ども教室「めっちゃ」は今年度で設置から16年目を迎えます。名称は小国弁の「くしてごらん」の意味で使われる「めっちゃ」と「とても」の意味で使われる「めっちゃ」をかけて命名されました。

平成29年度までは定員50名で2グループに分かれて活動していましたが、平成30年からは定員を設けず、3グループに分かれ、各グループ年間9～10回活動をしています。

「めっちゃ」では8人のスタッフのかたが子どもたちの活動を支えています。開始当初から参加しているかたなどベテランが多く、活動では子どもたちが楽しんでくれるもの、遊んでくれるものを用意してくれます。昨年度、実施した割箸鉄砲の工作では作ったもので遊べるよう、的を用意し、いつの間にかあてゲームに発展したこともあるようです。

最近では緑のふるさと協力隊や地域おこし協力隊の隊員も参加しており、子どもたちと一緒に活動しています。子どもたちにも人気で、気がつくとも隊員の周りには子どもが集まっています。

めっちゃの活動内容について地域学校協働活動推進員の大津秀子さん（緑町）にお話を伺いました。

「めっちゃに参加してくれる子どもたちは低学年が多く、物作りが好きな子は高学年になっても参加してくれますし、兄弟姉妹で参加してくれる子もいま



めっちゃ開始当初の様子



大津秀子さんとめっちゃの子どもたち

### 令和4年度に実施した活動プログラム

- ◇透き通る折紙
- ◇割箸鉄砲
- ◇ニュースポーツ体験
- ◇木のフォトフレーム
- ◇くるくるアート
- ◇クリスマス工作
- ◇エアカーリング
- ◇団子木
- ◇傘袋ロケット・金魚のモビール
- ◇工作キットでつくってみよう（万華鏡）



子どもたちが作った団子木

す。活動内容は工作が多く、子どもたちの作品は年に1回アスモで展示しています。また、小国町の伝統文化にも触れてもらうため1月には団子木作りをします。作り終わった後はスタッフのかたからその由来や作る意味について説明してもらい理解を深めてもらいました。作品は参観日まで昇降口に展示し、保護者のかたがたに見てもらいました。また、めつつちゃの活動のなかで継続することを大切にしています。子どもたちはひとりひとり得意なことが違います。自分が苦手なことや失敗してしまつたことでも無理せずちよつとずつ挑戦し続けることでいつかはできるようになります。めつつちゃの活動では諦めずに継続することの大切さを子どもたちに伝えていきます」とお話しただきました。

## 自分の世界を広げる 一歩ができる場所へ

叶水小学校で活動している「ひだまり」は放課後子ども教

室としては週に1回、全校児童を対象に実施されています。

保護者や地域のかた、地域おこし協力隊がスタッフとして活動しており、叶水中学校の生徒が手伝ってくれる時もあります。

小学校の授業終了後、子どもたちは旧叶水保育園に集合します。活動内容はスタッフが得意なことを活かし、染め物や工作などに取り組むほか、天気の良い日は野外で活動しています。また、講師を招いて野鳥観察や



野鳥観察をする野崎さんと子どもたち

ボードゲーム体験などを行っています。

コーディネーターを務める地域学校協働活動推進員の野崎奈都子さん（叶水）は活動について「一緒に活動し、子どもたちが何に興味・関心を持っているのかを知り、それを参考にプログラムを考えています。また、子どもたちに知ってもらいたいこと、体験してもらいたいことも盛り込んでいます。今まで知らなかった・関心がなかったことに対し興味を持ち、友だちが知ってもらい、自分の世界を広げてもらいたいです。天気がいよいよはなるべく野外で活動するようにしています。学区内のいろんな地域に行き、友だちが住んでいる地域について知ってもらいたいと思っています」とお話しただきました。

3年生のお子さんが活動に参加している大嶋愛さんは「昨年は新型コロナウイルスの関係で低学年のみの15時までの活動でした。今年は全学年が参加でき、時間も

16時半頃までに伸びたのでとても楽しく活動しているようです。近所に子どもが住んでいない子にとつて、ひだまりは放課後にお友達と遊ぶことができる大切な場所になっています。学校が終わった後、子どもが家でお留守番をするというお家もあると思います。子どもだけで家にいるよりも、ひだまりに参加してもらったほうが親としても安心できます」とお話しただきました。

## 放課後子ども教室に 参加して

5月17日に今年度最初のめつつちゃが実施されました。申込みがあった86人の児童のうち、この日は28人が参加し、くるくるリボンというおもちゃを作りました。スタッフに手伝ってもらいながら作ったおもちゃで楽しく遊びました。

活動に参加した矢部ひかりさん（小国町）は「図工や細かい作業が好きで2年生から参加しています。今日の活動も楽しか



堺悠杏さん（左）、矢部ひかりさん（中央）、伊藤咲喜さん（右）

「つたです」と感想をお話してくれました。また、伊藤咲喜さん（岩井沢）は「先にお姉ちゃん（岩井沢）がめっちゃ入っていて私も1年生から参加しました。活動が楽しいので4年生になっても続けています」。堺悠杏さん（兵庫）は「私も2年生から参加しています。工作が好きで、今日のくるくるリボンも楽しく作ることができました」とお話ししてくれました。



今野美喜子さん（右から2番目）とスタッフの皆さん

めっちゃ設置当初からスタッフとして参加されている今野美喜子さん（岩井沢）は「開始当初に比べ、めっちゃに参加する子どもは年々増えていきます。めっちゃの活動で作ることの楽しさを感じてもらえると嬉しいです。昔は子どもたちの親世代・祖父母世代のスタッフで運営していました。最近の緑のふるさと協力隊などの若い方が加ってくれ、とても助かっています。スタッフもベテランが多くなってきたので、ぜひ新しいかたにも参加していただきたいです」とお話しくださいました。

## 「コミュニケーション能力を育む場として」

子どもを取り巻く社会環境の変化により、地域のかたとのコミュニケーションをとる機会が少なくなるなか、放課後子ども教室では幅広い世代のかたと交流し、ともに活動することによって、社会性を身につけることができます。

ひだまりでは全学年の子どもたちが年齢差を感じることなく活動を楽しんでおり、活動のなかで自然に異年齢間のコミュニケーション力が身につけていることがうかがえます。

また、めっちゃでは参加した子どもたちから「お友達と一緒に活動できるから楽しい」、「めっちゃで友達が増えた」という感想が聞かれ、活動に参加することによって子どもたち同士の繋がりが深まっているようです。

保護者のかたからは「子どもがめっちゃでやったことについて楽しそうに話してくれる」や

「活動で作ったものの遊びかたや作りかたを教えてください」といった声が寄せられ、家庭での親子間・家族間の会話のきっかけになっていく様子が見られます。また、「地域のかたと交流する機会があることで、多くのことを学ばせてもらいました」、「家庭ではできない経験・体験をさせてもらえました」という声も聞かれました。

白い森学習支援センターからのお知らせ

**白い森子ども応援隊**  
公式LINEの登録をお願いします

白い森子ども応援隊に関する情報を発信する「公式LINE」を開設しています。最新情報をお届けしますので、友だちへの追加をお願いします。

【友だち追加の方法】  
スマートフォンで右記のQRコードを読み取ってください。

